

モラルに関する命令

2012年7月22日 アシェル・イントレーター

モラル（訳注：辞書には品行、道徳、倫理とあります）に基づいた行動（訳注：以下「品行」とします）は福音の中のとても重要な部分です。私たちは悪い行いを悔い改めるよう、またイエシュア（イエス）を信じるようにも勧められています。彼は私たちの罪を許して下さいますが、同時に私たちが従順であるよう求めておられます。私たちは聖霊を受入れ、聖霊は私たちを完全な義へと導かれます（使徒2章38節、2章19節、10章30節）。

これら3つの要素のすべて、すなわち悔い改め、イエシュア、聖霊は、品行が求められています。一方、真実な悔い改めを避けようとする普遍的な傾向が見られます。宗教的な世界では、悔い改めを儀式主義に陥らせ、世俗的な世界では、品行の完全性を道徳的相対主義に変えてしまいます。

絶対的なモラルの基準、特に偶像崇拜、殺人、姦淫、盗み、嘘をつくことに対する基本的な戒めは、十戒において定められました。古代イスラエルの預言者たちは、これらの律法にもとづいて悔い改めを呼びかけました。

エレミヤ7章9節--しかも、あなたがたは盗み、殺し、姦通し、偽って誓い、バアルのためにいけにえを焼き、

イエシュアは、永遠の命を受けるためには何が必要かと訊ねられた時、第一歩として十戒を示しています。

マタイ19章17~19節--もし、いのちにはいりたいと思うなら、戒めを守りなさい...殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証をしてはならない。父と母を敬え...

悔い改めは、信仰の必要条件です。

ヨハネは何故ある人々は信じ、ある人々は信じないのでしょうかと聞きました。主の答えは、深遠なものでした、つまり信じる能力は良い行ないと品行をなす心に依存しているのです。良い行ないなしには人は信仰の方には来ないで、良い行ないがあると、来るのです。

ヨハネ3章19~21節--人々は光よりもやみを愛した。その行ないが悪かったからである。悪いことをする者は光を憎み、その行ないが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来な

い。しかし、真理を行なう者は、光のほうに来る。その行ないが神にあってなされたことが明らかにされるためである。

品行とイエシュアにある信仰とは切り離すことはできません。私たちすべてが罪を犯したのです。罪の悔い改めが先ず第一歩です。何人かのクリスチャンは、戒めを守る必要はないと言います。では「守らなくて良いのはどれですか、姦淫ですか、盗みですか、嘘をつくことですか。」と私は聞きます。

ユダヤ教では、宗教的儀式と道徳的命令（訳注：品行、）を混同する傾向があり、それら両方をミツヴォット（訳注：単数形ミツヴァ「命令、または戒め」）と呼びます。儀式的戒律で品行をとって変えてしまうなら、律法から品行の力を取り去ってしまいます。こちらに、品行と儀式的戒律の違いを説明した聖句があります。

民数記15章39～40節、上着のふさは彼ら自身の品行ではなく、主の律法に従うことを思い出すための象徴なのです。

エレミヤ7章4～5節、22～23節、神さまは古代イスラエルに対し生け贄のことに気を配れとは言っておられませんが、主の命令に従い、義を行なうことを命じておられるのです。

ローマ2章27節、第1コリント7章19節、割礼は品行自体ではありませんが、品行を含んだ神の契約を思い出すためのものなのです。

イスラエルのメシアニックジューと世界のクリスチャンは、お互いにその根がユダヤ性にあることを発見してきていますが、契約の中の象徴的な要素と儀式的な要素を保っていくのは構いませんが、象徴と品行を混同しないように気を付けていきましょう。

（神の）完全性の一例であり、神から離れた価値観にあるこの世に闘いを挑んでいる、福音のメッセージにおける品行の力を回復していきましょう。

国会に新約聖書

今週、右派国会議員ミカエル・ベン・アリが、新約聖書の数ページをカメラの前で破り、ヘッドラインを賑わしました。かれは「宣教」活動を糾弾することによって自らの行動を弁護し、「新約の名において何百万人もユダヤ人が殺され、この忌々しい本こそが、（スペインの）異端審問や歴史を通じて、ユダヤ人の大量殺戮をもたらしたのだ」と主張しました。彼のコメントは、多くの正統派ユダヤ人のクリスチャンに対する態度を表しています。

ヴィクトル・カリシャーの率いるイスラエル聖書協会は、120部の旧約と新約の揃ったヘブライ語完全版聖書をすべての国会議員に送りました。ヴィクトルの反応はこうでした。

私たちは、参照メモと敬意を払った手紙とともに聖書を送りました。この版の聖書は、明確にヘブライ語旧約聖書と新約聖書の関連性を提示するもので、国会議員の方にとって彼らの接しているクリスチャン団体の立場を理解し、この本の内容とその意義に対する偏見を払拭する良い道具となるためです。

私がインタビューを受けたとき、メディアは、その本について私たちに感謝してくれた多くの方のことは無視し、少数の騒動を起こした議員の方にフォーカスすることを選んだのです。

ブルガリアとコロラドでのテロ

今週、陰湿で殺意に満ちた2件のテロ攻撃がありました。1件はブルガリアのブルゴスで、イランに関係するイスラム聖戦主義の自爆テロにより、空港からのイスラエル人旅行者の乗ったバスが爆破されました。イスラエル人5人が死亡し、何十人もが負傷しています。2件目は、コロラド州デンバーの映画館で、精神病質者が銃を乱射し12人の罪のない人々を死なせ、58人が負傷しました。

1件目は聖戦主義者で、2件目は精神病質者で、どちらも悪霊の影響下にあるものです。

オンライン上のリバイブ・イスラエル

まだ見たことがない方へ、アシェルがリバイブ・イスラエル独自のYouTube ページで最新のメッセージを語っています、お見逃しなく。

<http://www.youtube.com/user/ReviveIsraelTV>

また、Facebook で「いいね」をクリックするのも忘れずに。

<http://www.facebook.com/reviveisraelmedia>